

県北



感染防止用手袋 市に1万組寄贈

日立総合病院など

救急の日(9月9日)などに合わせ、日立製作所日立総合病院(奥村稔院長)とひたち医療センター(加藤貴史院長)は、日立市に救急隊員が着用する感染防止用使い捨て手袋「ディスプレイグローブ」計1万組を寄贈した。両院長が市役所を訪れ、小川春樹市長に手渡した。写真。

手袋寄贈は日立総合病院が35回目、ひたち医療センターが37回目。手袋は救急車が出動時、隊員が着用する。贈呈式で両院長は「救



急隊員への感謝を込めて寄贈した。隊員の安全を守るために使ってほしい」と話し、小川市長は「有効に活用させていただき」と謝辞を述べた。

市消防本部によると、昨年1年間の救急出動は8521回で年々増加傾向を示している。